

◆ 目次 ◆

- 1 「伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶」
- 2 「総領事館からのお知らせ」
- 3 「寄稿文」
- 4 「領事便り」
- 5 「広報・文化便り」
- 6 「日本関連行事等のお知らせ」
- 7 「政治」
- 8 「経済」

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶

8月になり、少し暑さも和らぎましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

幸いなことに、ここモンリオール、ケベックでのコロナウィルスの感染状況は落ちついています。また、大西洋州でも新規感染がほとんど見られません。

ウィルス感染により、今年の夏は今までとは全く違った雰囲気になりました。例年であれば、モンリオールでは短い夏を楽しむために、多くのイベントが開催され賑やかになりますが、今年は多くのイベントがキャンセルになりました。残念なことです。

そのような中で、日本にとっても重要なイベントである、オタクトンやヤタイ・モンリオールがオンラインで開催されることになりました。逆境の中、何とかして良き伝統を続けていこうとする主催者皆様の努力に敬意を表します。総領事館としても、新しい試みとして、こうした行事にオンラインで参加することにしました。

8月15日から開催されるオタクトンには、当館職員による日・モンリオール関係紹介の他、寺元書道家による書道映像の提供、フランス語で落語を行うサバ氏の落語映像の提供を行います。

また、21日から開催されるヤタイ・モンリオールには、村上公邸料理人が「独身男性でも簡単に作れるおいしい焼そば」をテーマに、ライブで公邸料理人の焼そばレシピを披露します。

皆様お時間があれば、是非ご覧ください。

9月からは休暇も明け、学校も始まり、新たなサイクルが始まります。現在日本との往来は大きく制限されており、家族の行き来や、観光はもとより二国間のビジネスにも大きな影響が出ています。今後のウィルス感染の状況にもよりますが、感染状況が落ち着いているのであれば、総領事館としては、皆様のご意見を伺いながら、この不自由な状況が少しでも改善されるよう、関係当局に働きかけていくことを考えています。

皆様良い夏をお過ごしください。

2 総領事館からのお知らせ

(1) 2020年8月、9月の休館日のお知らせ

2020年9月 7日(月) Labour Day (任国の休日)

3 寄稿 ～ケベック大学モントリオール校コミュニケーション学部語学学科 教授 神崎佐智代～

日本で修士号をおえた後、言語政策・連邦制の研究のためにモントリオールへやってきた。そして博士号を取得し、今の仕事であるケベック大学の語学学科教授の職に運よくつくことができた。これだけ聞くと迷いなく順調に進んできたかのように思う人もいるかもしれない。だが、日本の高校は平城宮跡に近く、日本の考古学・史学科に進学しようと思っていた。その頃は、まさか自分が将来カナダのモントリオールで今のような仕事に携わるとは、想像していなかった。

結局史学科には進学しなかったものの、万葉仮名など漢語の知識が必要な考古学への興味から高校三年生から中国語を選考し、大学でも中国語が副専攻であった。百人一首に出てくる「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」は、唐に渡り仕えた安倍仲麻呂が故郷の景色を偲んだ歌だが、この三笠の山(若草山)というのが標高342m程度のなだらかな山で、モン・ロワイヤルを見ながら私はこの句を思うのである。

大学入学前に、奨学金でベルギーに留学する機会にめぐまれ、その経験からモントリオールで研究することになった。そのため言語政策研究をするにあたって仏語の大学院に入学した。ケベックの言語政策と Interculturalisme(間文化主義)の研究を行いながら、当時キャンパスに欧米州外出身の学生がほとんどおらず、有名なカナダの二言語多文化主義の英語圏と仏語圏の違いを感じた。一方、ケベック州でブシャール・テイラー委員会が組織される前であり、同委員会(CCPARDC)に提出されたレポートにおいて論文引用いただくなど微力ながら貢献ができた。

当地に来る前は前述のように長らく住むことになるとは思っていなかったのだが、来る数年前、唐突にモントリオール旅行から戻ってきた友人に強く勧められたことがあった。言語と町の雰囲気ぴったりだと言われたのだが、全くピンと来なかった。他人の見立てというのは不思議なものである。オンタリオ州の新企会から「日系」の学生として、ケベック州政府から「ケベコワ」学生として奨学金をいただき、研究を続けることができ、多くの友人ができ、当地への親しみは大きくなった。

そんな中、恩師の人類学部の先生らが後押ししてくれ、2007年よりモントリオールの大学で教鞭を取るようになった。日本のロスジェネ世代の私にとっては、20代で北米の大学の講師になれたことは大変な幸運であった。日本文化論や日本現代社会論等を担当し、レポートを出す立場から受け取る立場になって、毎学期何百枚も提出物を読まなければならない先生側の大変さがわかったものだった。かつての考古学・日本史への興味は文化論の授業でとても役立ち、人生が不思議と収斂してくるようになって感じた。一方、日本語の文献講読といった日本語の講義も東アジア研究所で担当させてもらえることになった。東アジア研究所では中国専攻の学生が日本文化の授業をとることも多いため、自身が中国語専攻だったことが学生の理解に役立った。「手紙」が中国語でトイレトペーパーであるとか、中国語のインターネット用語の「生肉」(加工されていない動画の意)や、日本の国字や和製漢語(例えば「文化」も)についてなど、漢字の話に花を咲かせることは今もしばしばある。

文化と言語の講義を担当すると、人類学者の「サピア・ウォーフの仮説」というものを何度も考えることになった。これは「思考を形作るのは文化が先か言語が先か」という問題提起で、こ

れに関する学術的論争はさておき、「あげる」「もらう」「くれる」という基本的な言葉を教えるときに考えさせられる。英仏語で「give/donner」「receive/recevoir」と訳される（日本語教育では授受表現と呼ばれる）。一方実践では「先生に本をもらった」という文が自然に出ることがなかなか難しく、「先生が(私に)本をあげました」とついつい英仏語の直訳 The teacher gave me a book/Le professeur m' a donne un livre. を使ってしまふ。同じ状況を見ても置かれている視点が違うので、日本語の視点に身をおいていないとなかなかでてこない文なのである。これが、「してもらう」「させていただく」といった文化を反映した言い回しにつながるのである。

また、先日第31回ケベック州日本語弁論大会を本学で開催したのだが、英語では speech contest、仏語では concours d' elocution と訳されている。Elocution は日本語で「雄弁さ」と辞書に載っており、弁論大会という訳も妥当で広く使われているのだが、見学に来る日本人留学生にはピンとこないらしく何をするのか、と尋ねられる。カタカナ語で「スピーチコンテスト」というと途端に気軽に見学にきてくれるようになるのであるが、このカタカナ語というものの理解がこちらの学生にはやっかいである。「このビルはスーパーです」と書いて、「このビールは super(すばらしい)」と言いたかった、というようなことは日常茶飯事である。スマホという言葉なら短縮するのが面白いと頷いている学生も、コンシェルに至っては仏語が起源だとは知らないほうが混乱がないようである。

かつて日本に興味がある人は柔道剣道等をしているといった理由があったが、今では希少で、漫画やアニメ、テレビゲーム等が動機付けの学生が多くなっていることはみなさんご存知だと思う。最近では日本旅行の前後に文化や言語を学びたい、というような学生の数も増え、随分敷居が低くなったことをとても喜ばしいことだと思っている。先日、日本人と結婚した昔の教え子に会うと、「子供ができてお尻が温かくなって、貯金をはじめた」、というので「お尻に火がついて」だろうと訂正すると、先生の前なので「丁寧に」言いたかったと言われて、笑ってしまった。しかし、このような日本の文化・言語を学ぶ学生が、当地の多文化主義や間文化主義をすすめてくれているように感じるのである。

ケベック大学モントリオール校
コミュニケーション学部語学学科
教授 神崎佐智代

4 領事便り

(1) 領事窓口の開館時間

当地における新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、当館の感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、本年4月1日より当面の間、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

・領事窓口の開館時間

10:00～15:00（昼12:30～13:30を除く）

※9:00～10:00及び15:00～17:00につきましても、電話照会（緊急の場合）・メール対応を実施しています。

※来館時の注意点

本年3月25日よりケベック州政府の要請を受ける形で、当館が入居するビル管理会社側が、入居テナント従業員以外の入館を1階受付において制限しています（土日祝日等の休館時対

応と同様の措置)。

当館へ来館される方につきましては、1階受付において、氏名とともに在モンリオール日本国総領事館への訪問理由を告げることにより、入館を許可されることとなっています。

(2) 本年度の領事出張サービスについて

新型コロナウイルス流行の影響により、現時点においては領事出張サービスの実施を見合わせている状況です。

今後、各州の状況を注視しつつ、行動・移動制限が緩和されれば、領事出張サービスの再開を検討しますので、在留邦人の皆さまにおかれましてはご不便をおかけしていますが、ご理解賜りますよう宜しくお願いいたします。

5 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を (culture@mt.mofa.go.jp) までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

(1) オタクソン2020

日本のアニメ、マンガ、ビデオゲーム、ポップカルチャーに関するイベントです。今年はオンラインで開催されます。期間中、当館協力事業として、日ーケベック関係の講演、書道、落語の日本紹介を行う予定です。

日時：8月15日(土)・16日(日)

<https://www.otakuthon.com/2020/en/>

(2) YATAI MTL 2020 a la maison

日本のストリート・フード・フェスティバルです。今年はオンラインで開催されます。期間中、当館協力事業として、和食デモンストレーション、書道、落語、JET プログラムの紹介などを行う予定です。

日時：8月21日(金)～23日(日)

<https://www.facebook.com/yataimtl/>

6 日本関連行事等のお知らせ

*以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

*外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様への御参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんので御了承ください。

(1) モントリオール市立植物園日本館・日本庭園でのイベント

9月7日(月)まで、折り紙及び日本庭園案内が行われています。

場所：モンリオール市立植物園日本館・日本庭園(植物園入園料がかかります。)

4101 rue Sherbrooke Est, Montreal

(折り紙) <http://calendrier.espacepourlavie.ca/origami-907996>

(日本庭園) <http://calendrier.espacepourlavie.ca/the-art-of-japanese-gardens>

(2) ファンタジア国際映画祭

今年はオンラインで、日本映画も上映されます。

期間：8月20日（木）～9月2日（水）

<https://fantasiafestival.com/en/>

(3) ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン書道部開講

日本在住の寺本小鳳先生の直接指導によるオンライン書道部が開講します。初心者向けではなく、小・中学校等で書道の経験があり、もう一度書道を基礎から始めてみたいという方を対象に若干名募集しています。オンライン(Cisco Webex Meeting)ですので、ケベック市に在住されていない方でも受講可能です。

9月17日より隔週木曜日19時半～21時半：6回講座

(9月17日、10月1日、15日、29日、11月12日、26日)

受講料：84\$

連絡先：佐藤祥子氏 Sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca

7 政治

(1) ケベック (QC) 州

- ・7月4日、州の必要不可欠事業従事者向けインセンティブプログラム(P I R T E)が終了。
- ・7月8日、州政府は、新型コロナウイルス感染経路調査アプリ運用の可能性について8月2日までの予定で意見募集開始。
- ・7月9日、ジロー(Nadine Girault)州移民大臣は、カナダ永住権取得への近道として留学生や外国人就労者に人気の移民プログラム「ケベック体験プログラム(Programme de l'experience Quebecoise (P E Q))」について、申請資格を得るためのケベック州における就労期間の短縮や条件の緩和を含む改正を実施。
- ・7月13日、公共交通機関におけるマスク着用義務付け開始。違反者には400～6,000加ドルの罰金が科される可能性あり。
- ・7月14日、モントリオール美術館(MBAM)理事会は、パワハラがあったとしてボンディル(Nathalie Bondil)代表を解任。
- ・7月15日、著名人に対するセクハラ告発が相次ぐ中、ブランシェ(Yves-Francois Blanchet)ブロック・ケベコワ党首がフェイスブック上で、20年以上前のセクハラについて匿名の告発を受ける。ブランシェ氏は疑惑を一切否定。
- ・7月15日、マスク着用義務付けに反対する運動に5万人が署名。
- ・7月18日、屋内公共施設におけるマスク着用義務付け開始。
- ・7月18日、州政府による一般企業の段階的職場復帰措置により、従業員数の最大25%のオフィス勤務が可能に。州政府は引き続き出勤よりもテレワークを推奨。
- ・7月21日、モントリオール市は、パンデミックの影響で閑散としているダウンタウンを活性化するため40万加ドルを支出。
- ・7月22日、州医療現場向けの330万枚のサージカルマスクが、追加検査のため中国の税関で足止め。中国によるカナダに対する政治的報復の可能性。
- ・7月26日、ケベックシティでマスク着用義務付け反対集会に1,000人以上が参加。
- ・7月28日、連邦・州政府はそれぞれ、9月1日の納税期限を9月30日に延期。

(2) 大西洋州

- ・7月2日、連邦漁業・海洋省は、漁業や養殖業に損害を与えたアザラシの殺処分許可免許の発行中止を検討中。2022年1月以降もアメリカに規制なしに海産物を輸出するには、カナダを始めとする全ての国はアメリカの海産哺乳類保護法(MMPA: Marine Mammal Protection Act)が定

める基準に準じる必要があり、同法ではアザラシを含む哺乳類の殺処分は原則認められていない。

- ・ 7月3日、大西洋州民を対象に、大西洋州間の自主隔離なしの往来が可能となる「アトランティックバブル (Atlantic Bubble)」措置が施行。
- ・ 7月10日、NS州のファンディの崖と、NL州ボナヴィスタ半島が、ユネスコ世界ジオパークに認定。ファンディ湾に位置する崖は3億年前の超大陸パンゲアの形成と分裂の様子両方が観察できる世界で唯一の場所であり、ボナヴィスタ半島は5.6億年前エディアカラ紀のものと推定される初期の多細胞生物の化石が見つかる場所。
- ・ 7月17日、カナダ統計庁が2021年国勢調査の質問事項を発表。少数派の言語教育に関する質問事項が増え、ケベック州外で仏語で教育を受ける権利を有する人の実態が明らかになるとして大西洋州の複数の仏語系団体はこれを歓迎。

(3) ニューファンドランド・ラブラドール (NL) 州

- ・ 7月6日、州政府が学校の新学期の計画を発表。3つのシナリオ (全面的に対面授業、対面とオンライン授業半々、全面オンライン授業) を想定し、感染状況に応じて地域別に各シナリオを使う予定。オンライン授業が受けられるように端末購入のための予算も確保。現状が続けば全面的に対面授業となる見込み。
- ・ 7月7日、州上級裁判所は、2017年に州オフショア石油委員会 (C-NLOPB) が Headwater Exploration (本社カルガリー、旧社名は Corridor Resources) に対しQC州との州境セント・ローレンス湾に位置するオールド・ハリ (Old Harry) 油田の試掘ライセンスを更新した決定は無効であるとの判決を下した。企業による無期限の試掘を阻止する判例となるとして、環境団体は同判決を歓迎。
- ・ 7月24日、オズボーン州財務大臣は、2020年度の赤字が21億加ドルになる見込みであると発表。主に石油価格下落のために6.3億加ドルの歳入減、パンデミック対策のために7.2億加ドルの歳出増を予測。
- ・ 7月28日、メモリアル大学がラブラドールにおける最初の学術拠点として、Happy Valley-Goose Bay に School of Arctic and Sub-Arctic Studies を設立すると発表。北部研究に特化したプログラムを提供するべく3~5年以内のキャンパス建設を目指す。
- ・ 7月28日、ポール州首相は、1855年に建設され老朽化が進むセント・ジョンズの Waterford メンタルヘルス病院に代わる新たな病院を建設する3.3億加ドルのプロジェクト事業者に13社からなる Avalon Healthcare Partnership を選定したと発表。2021年着工、2024年完成予定。

(4) プリンスエドワードアイランド (PEI) 州

- ・ 7月2日、州全域で使い捨てプラスチック袋使用禁止措置施行から1年でプラスチック袋ごみがほぼゼロに。以前は年間1,500~1,600万枚を回収していた。2020年はNL州が、2021年は連邦政府が同様の措置施行を目指している。
- ・ 7月7日、PEI 大学研究者チームによると、2018~2019年に州の海岸線では平均で40センチメートルの浸食が確認された。比較して1968年~2010年の浸食は年間平均で28センチメートルであった。
- ・ 7月23日、州・連邦政府は、風力発電の送電線106キロメートルを島西部にかけて建設するプロジェクトのため共同で4400万加ドル支出すると発表。送電線は2025年に完成予定の Skinners Pond 風力発電所からサマーサイド近郊の Sherbrooke サブステーションをつなぐ予定。

(5) ノバスコシア (NS) 州

- ・ 7月3日、マクニール州首相は、中国がカナダ産ロブスターに対して新たに課す新型コロナウイルスに関する責任追及措置について、活海産物に対して責任を負わせるのは筋が通っていないと批判。パンデミックの影響で落ち込んだ中国向け輸出がようやく再開したところだったが、中国・北京の魚介市場で発生したクラスターの感染源がアトランティックサーモンに使用されたまな板と

され、カナダ産海産物が追加措置の対象となった。中国はアメリカに次ぐカナダ産ロブスターの輸出先であり、ロブスターのほとんどがノバスコシア産。

・7月6日、州政府は、大西洋州外から行き来する人に対する自主隔離要請強化を決定。4～5日にかけてP E I州で発生した新型コロナウイルスクラスターの感染源が、NS州到着後14日間の自主隔離を怠ったアメリカからの訪問者であったことを受けての措置。

・7月6日、ケープ・ブレトン島のエスカソニ・ファーストネーションが独自の通信会社「Eskasoni Communications」を設立。コミュニティへの高速光ファイバーインターネットの提供を目指す。同プロジェクトに連邦政府が250万加ドル、州政府も8,000万加ドル支出する。

・7月16日、連邦政府は、1世紀にわたり州内3ヶ所の土地の権利を主張してきたミクマク・ファーストネーションの2コミュニティ(MillbrookとSipekne' katik)に対し約5,000万加ドルの補償を支払うとともに、同2コミュニティが問題の土地と同じ広さの土地を代わりに取得することで合意。

・7月18日、ハリファックス市議会のワーキンググループは、同市内公園から一時撤去中のエドワード・コーンウォリス像の永久撤去を勧告。ハリファックスの創設者、英国人エドワード・コーンウォリスは、1749年にミクマク・ファーストネーションの頭皮に対し賞金をかけたことでも知られ、同氏の扱いについては今日でも論議を呼んでいる。

・7月18日、州上級裁判所は、1913年から親族が住んできたノース・プレストン(ハリファックス近郊)の土地所有権を求める原告(Christopher Downey)の訴えについて、所有権が認められないのは黒人に対する構造的差別があるとの判決を下した。18～19世紀のアメリカ革命や米英戦争でカナダに逃れてきた黒人ロイヤリストや元奴隷に与えられた土地は、法的な所有が認められないまま子孫が住み続けているケースが多い。

・7月22日、チャーチル(Zach Churchill)州教育大臣が新学期の計画を発表。100%登校、対面授業を想定しつつ、万が一の場合はオンラインを採り入れて授業を継続できるように計画を策定。

・7月23日、州内で4月に22人が犠牲になった銃乱射事件について、遺族や支援者、連邦上下院議員、専門家等が公開調査を求める中、連邦・州政府は合同独立検証委員会設立を発表。これを受け、独立委員会形式では真実が明らかにされないとして州内各地で抗議集会が実施された。27日、州・連邦政府は相次いで公開調査を行うことに同意。公開調査では調査委員会は公聴会に証人を召喚する権限を持つ。

・7月24日、州内公共交通機関におけるマスク着用義務付け開始。

・7月25日、ナチスシンパや極右思想を持つドイツ人がケープ・ブレトン島に拠点を設けようとしているとドイツ週刊誌 Der Spiegel が報道。同誌によると、数百人のドイツ人がこの動きに賛同しているとするケープ・ブレトン島在住のドイツ人2人がナチス、陰謀説、極右に賛同する参加者を集めてセミナーを開催し、セミナー参加者は不動産業に従事する別のドイツ人1人を通じて同島の土地を購入しているという。

・7月27日、連邦政府は、カナダ産ワインに関する問題でオーストラリア政府と合意。これを受けNS州政府は同州産ワインに対する上乘せ価格割引を段階的に廃止する。2018年にオーストラリア政府は、カナダ連邦政府とON、QC、NS州が自国・州産ワインを不当に安く売っているとして世界貿易機関(WTO)に提訴していた。

・7月29日、ケイシー(Karen Casey)州財務大臣は2020年度の赤字が8.5億加ドルになる見込みであると発表。2月の予算発表時と比べ歳入は5.3億加ドル減の110億加ドル、歳出は4.7億加ドル増の120億加ドルを予測している。

・7月31日、州内屋内公共施設におけるマスク着用義務付け開始。

(6) ニューブランズウィック(NB)州

・7月15日、州政府が州内観光促進プログラムを立ち上げ。7月15日から9月30日の間に利用した指定の宿泊やアクティビティが20%割引となる。

・7月28日、州議会解散総選挙のうわさが流れる中、野党3党は総選挙実施に反対を表明。パンデミックの状況を考えると選挙実施にはリスクがあり、総選挙よりも3つの空席を埋める補欠選挙

実施を支持。

- ・ 7月30日、ヒッグス州首相は、州境を接するQCとNB両州の自治体同士の自主隔離なしの往来を8月1日より条件付きで許可すると発表。
- ・ 7月31日、NB州でかつて存在したアカディア党の復活に向け市民団体が声明を発表。同党は州内仏語系地域の利益を代弁する政党として1972年に設立されたが、議員を一度も選出できないまま3度の州議会選挙の後に解散していた。

8 経済

(1) QC州

- ・ 7月7日、メディカゴ社（田辺三菱製薬連結子会社、本社ケベックシティ）は、英製薬大手グラクソ・スミスクライン（GSK）と新型コロナウイルスのワクチン開発・評価で提携を発表。提携プロジェクトでは、メディカゴが開発した植物性由来ワクチン開発の製造設備を使い、コロナウイルスワクチンの抗原を製造する。これにGSKのアジュバントが加わり、2021年末までに、1億個のワクチン製造を目指す。14日、治験開始。
- ・ 7月7日、州政府は、温室生産者向けの電気料金値下げを発表。最低設置容量（現行300キロワット）が大幅に引き下げられることで、新たに約1,000温室生産者が割安な電気料金を利用することができる。
- ・ 7月7日、チャーター航空のNolinor（本社ミラベル）が新航空会社OWG（Off We GO）を設立。3機が温暖地方面に運航予定。
- ・ 7月13日、ケベック投資公社（IQ）が3,000万加ドル出資する、貨物飛行船開発の仏企業フライングホエールズ（Flying Whales（FW））のケベック州子会社「FWケベック」について、中国による産業スパイの標的となるリスクがあるとして、連邦政府が同社設立を許可しない可能性があるとの報道。FWは中国・航空機製造の中国航空工業集団（AVIC）が出資しており、AVICは中国軍に管理されているとの疑惑がある。ケベック州政府は「FWケベック」の少数株主（49%）。
- ・ 7月15日、加工工場やレストランの閉鎖による供給過剰のため、ケベック州産豚肉が大幅に値下がり。
- ・ 7月22日、ケベック州の4月の実質GDPはマイナス14.8%となり、2004年の水準まで落ち込んだ。カナダ全体（実質GDPマイナス11.6%）と比べ、パンデミックによる自主隔離や各種規制の影響を大きく受けた。
- ・ 7月23日、マイクロソフトXbox制作スタジオ「コンパルジョンゲームズ（Compulsion Games）」が人員増強のためダウンタウンのオフィスビルに引っ越し。12月入居予定。
- ・ 7月28日、モントリオール空港が今年第2四半期の旅客数は15.6万人で前年同期比約97%減であったと発表。収益も84%減と激減。
- ・ 7月30日、北米におけるテクノロジー市場ランキングで、モントリオールは2019年の14位から16位に後退しオタワに逆転された。同ランキングは不動産企業CBREが、テクノロジー関連雇用の面で魅力的な北米の50都市を毎年発表しているもので、ランキング入りしているカナダの他の都市はトロント、バンクーバーでそれぞれ4位と12位。
- ・ 7月31日、欧州委員会が仏アルストムによるボンバルディア鉄道事業買収を承認。買収額は90億加ドル。

(2) NL州

- ・ 7月20日、石油元売大手のアーヴィング・オイル（Irving Oil、本社NB州セントジョン）がNorth Atlantic RefiningのCome-by-Chance（ニューファンドランド島東部）製油所買収手続きを進める中、Origin International（本社米メリーランド州）も同製油所買収希望を表明。アーヴィングとNorth Atlantic Refiningの親会社である米Silverpeakとの取引は現在カナダ競争局が審査中。

(3) P E I 州

・7月7日、州内のバイオサイエンス産業の開発促進を目指す非営利組織 P. E. I. BioAlliance が、シャーロットタウンの工業団地 West Royalty Industrial Park に2万平方フィート（約1、800平方メートル）の製造施設を建設中。2021年完成時には6社が入居予定。

(4) N S 州

・7月13日、ピアリダイ・エナジー (Pieridae Energy、本社カルガリー) は、州東部ゴールドボロ液化天然ガス (LNG) 工場の建設発注先であった Kellogg Brown & Root がプロジェクトから撤退したと発表。100億加ドル規模の同プロジェクトは、年間1,000万トンのLNGを生産・輸出するというもので、ピアリダイは5月にLNG市場の低迷とパンデミックを理由に、今秋予定していた最終的な投資決定を遅らせると発表済み。

・7月14日、バイオ製薬会社 I M V は連邦保健省より、新型コロナウイルスワクチンの治験実施認可を得た。治験は今夏開始し今秋には結果を出すことを目指す。I M V はハリファックス対岸のダートマスに研究所、ケベックシティにオフィスがある。

(5) N B 州

・7月3日、モンクトンの大麻生産企業オーガニグラム (Organigram) が従業員の25%にあたる220人を解雇。パンデミックによる需要落ち込みが理由。

・7月8日、石油元売大手のアーヴィング・オイル (Irving Oil、本社セントジョン) が国内外の従業員の6%にあたる250人を解雇。

・7月10日、カナダ統計庁によると、他州に先駆けて4月末に隔離解除を始めたNB州の6月の雇用は今年2月の水準の97%にまで回復した。6月の失業率は9.9%とカナダ全体の平均 (12.3%) を下回った。

・7月22日、カナダ統計庁によると、NB州の4～5月の小売販売額は19億加ドルで前年同時期に比べると16%減であったもののカナダ全体で25.3%だったのに比べれば良く、同州経済はカナダの他地域よりも早く回復している。

[在モンテリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから送信されています。本メールあてに直接返信なされないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。 emagazine@mt.mofa.go.jp

○配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止 (又は登録解除)」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、 emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡願います。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モンテリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更/削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○バックナンバーの閲覧は、以下のホームページからお願いいたします。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ (www.kantei.go.jp)

外務省ホームページ (www.mofa.go.jp/mofaj/)

在カナダ大使館ホームページ(www.ca.emb-japan.go.jp)

当館ホームページ

(https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館 Facebook (www.facebook.com/JapanConsMontreal)

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333、

Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■